

ルクセンブルク（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在ルクセンブルク日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	3	3	29	0	0	0	3	3	134	6	6	163

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

1978年、在留邦人を講師に高校生以上を対象とした日本語講座が発足した。その後、民間の語学教室においても日本語講座が開講され、数年間継続したものの、講師の退職により閉講となった。

1999年から学生や社会人を対象とした日本語講座を公立中高等学校（リセ）2校（ユベル・クレマン中高等学校及びギャルソン中高等学校）が開講し、2003年10月から毎年、習熟度にあわせる形で各々週1回3～4コースの講座を開講している。また、2007年9月にルクセンブルク北部に位置するディーキルシュ中高等学校（公立）で、2008年9月にはルクセンブルク市内のアテネ中高等学校（公立）において新たに日本語講座が開講された（ディーキルシュ中高等学校では、2023年夏をもって一度閉講したものの、2025年10月に再開された）。さらに、2025年9月からはルクセンブルク国立言語学院（INLL）で新たに日本語講座が開講された。

学校の生徒を対象とした日本語講座としては、2011年10月から欧州の諸機関で働く子弟などが通うヨーロ

ピアノ・スクール I、2012 年 9 月からヨーロッパピアノ・スクール II、2021 年 9 月からはオーバー・ザ・レインボー（OTR）インターナショナルスクール（私立）、2024 年 9 月からは南部ディフェルダンジュ市のニク・ビエヴェル中高等学校（公立）において、日本語の授業が行われている。

背景

1977 年に日本大使館（在ベルギー大使館が兼轄）がルクセンブルクに事務所を開設したことにより、日本語教育発足に向けた教材面での援助がなされ、その後 1980 年代後半からの日系企業（金融・製造など）の進出及び日本の漫画・アニメ・テレビドラマの普及により、ルクセンブルクにおける日本及び日本語教育についての関心が高まったものと推察される。最近は無料動画共有サイト（YouTube など）を通じて、より身近に日本の情報に触れることが可能となったことを受け、また、近年の日本観光人気を背景に、若い世代においても日本語学習への関心が高まってきているとされる。

特徴

日本語教室を開講している 9 か所のうち 8 か所は、リセなど日本の中学校・高等学校に該当する学校である。8 校のうち 4 校は、他のリセの生徒や一般市民でも受講できるものであり、残り 4 校は当該学校の生徒のみを対象としたものである。また、2 校（ギャルソン中高等学校及びオーバー・ザ・レインボー（OTR）インターナショナルスクール）では自由選択科目として履修により単位を認められる講座となっている。

最新動向

2024 年以降新たに 4 か所で日本語講座が開講・再開講された。また、他にも日本語講座の開講に関心を持っているリセも複数存在している。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

2 校（ギャルソン中高等学校及びオーバー・ザ・レインボー（OTR）インターナショナルスクール）では自由選択科目として履修により単位を認められる講座となっている。

高等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

学校教育以外

「特徴」を参照

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

2-6-7 制。

幼稚園が2年間（4～5歳）、小学校が6年間（6～12歳）、中高等学校（リセ）が7年間（13～19歳）。義務教育は幼稚園からリセの前期3年間までの11年間であるが、2026年9月からリセの後期4年間も義務教育となることが決まっている。リセは、「リセ・クラシック（大学進学希望者向け中高等学校）」と「リセ・テクニク（職業訓練の中高等学校）」に分かれており、入学試験により振り分けられる。大学への進学は、リセ修了試験合格証（フランスのバカロレアと同種）を取得し、ルクセンブルク大学または、国外の大学へ進学する。

教育行政

初等・中等教育は教育省の管轄下にある。また、高等教育機関のルクセンブルク大学は高等教育省が監督している。

言語事情

ルクセンブルク語、フランス語及びドイツ語を公用語としているが、ルクセンブルク市内を中心に英語も一般的に話されている。

外国語教育

幼稚園はルクセンブルク語。小学校では伝統的に、1年生でルクセンブルク語に加えてドイツ語による基本教育が行われ、2年生から上記2か国語に加え、フランス語を学び始めていた（必修）が、ポルトガルやイタリア等の移民の子女といったドイツ語による教育に困難を抱える児童に対応するためにフランス語による基本教育を選択ができるようになる（2026/2027年度以降）。リセでは、ルクセンブルク語、ドイツ語、フランス語に加えて英語を履修するが、「リセ・クラシック（大学進学希望者向け中高等学校）」では、ラテン語、イタリア語、スペイン語を履修することも可能である。

外国語の中での日本語の人気

母国語がルクセンブルク語で、ドイツ語、フランス語も公用語であり、さらに学校教育において英語の学習が義務であるため、日本語学習は一般的ではないが、マンガやアニメをはじめとした日本文化、日本観光人気を背景に一定の需要がある。例えば、2025年にルクセンブルク国立言語学院で初めて日本語講座が開講されたが、すぐに満席となった。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

一般的に使用されている特定の教材はない

高等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

学校教育以外

日本やヨーロッパなどの教材を使用している。

IT・視聴覚機材

DVD や YouTube などの教材を内容に応じて使用している。

5.教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

非常勤講師としての採用にあたって日本語教師の資格が条件となることがある。

高等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

学校教育以外

資格要件はない。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムは確認されていない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

2026年1月現在、日本人非常勤講師4名。

教師研修

現職の日本語教師対象の研修は確認されていない。

6.教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係のネットワークは確認されていない。

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

JF からの派遣は行われていない。

その他からの派遣

(情報なし)

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9.評価・試験

共通の評価基準や試験は確認されていない。

10.日本語教育略史

1978年	在留邦人による日本語教室発足（現在は閉講）
1999年	公立リセ2校（ユベル・クレマン中高等学校及びギャルソン中高等学校）において日本語講座開講（1コースから始まり、年々、習熟度に応じたコースが増えていった。）
2003年	ユベル・クレマン中高等学校及びギャルソン中高等学校において習熟度別の日本語講座のコース増設
2007年	ルクセンブルク北部のディーキルシュ中高等学校（公立）において

	日本語講座開講（ただし、2023年～2年間閉講）
2008年	ルクセンブルク市内のアテネ中高等学校（公立）において日本語講座開講
2011年	ヨーロッパ・スクールIにおいて日本語講座開講
2012年	ヨーロッパ・スクールIIにおいて日本語講座開講
2021年	オーバー・ザ・レインボー（OTR）インターナショナルスクール（私立）において日本語講座開講
2024年	ルクセンブルク南部のニク・ビエヴェル中高等学校（公立）において日本語講座開講
2025年	ルクセンブルク国立言語学院（INLL）において日本語講座開講

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）